

社会

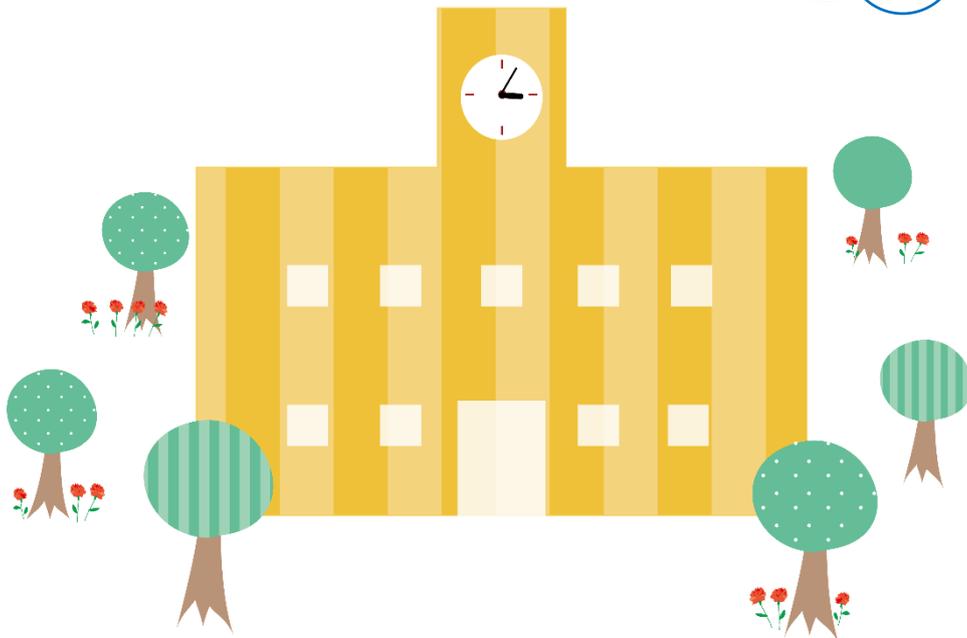
心理学

第 33 回オンライン飛翔祭

Psychology Museum

心

行動



学校教師学部 関塚ゼミ

はじめに

本日は「Psychology Museum」をご覧くださり、誠にありがとうございます。

本発表は「心理学の研究をしたい！」と集まった学校教師学部学生が日頃学修している成果です。当ゼミには2年生4名、3年生3名、4年生5名が所属し、今年度ははじめから3年生を中心として、飛翔祭での研究発表を目標に準備を進めてきました。

普段のゼミでは、各自が興味を持つテーマについて文献を調べ自分なりの考察をし、全員の前で発表をしてお互いに意見を交わしています。また、グループに分かれて、学校現場で起こりうる事例を挙げ、その原因や対応を心理学的に検討する課題にも取り組んでいます。さらに飛翔祭の発表のために、各自が興味をもった心理学者の業績と経歴をまとめました。今回は、事例研究と心理学者研究を発表いたします。

ごゆっくりとご高覧の上、ご指導いただけますと幸いです。

第33回オンライン飛翔祭

学校教師学部 関塚ゼミ学生一同

目次

はじめに 2

<事例研究>

| | |
|-------------|----|
| 親子の心理 | 5 |
| きょうだいの心理 | 6 |
| 思春期の心理 | 7 |
| ストレスの種類と解消法 | 8 |
| 対人恐怖症 | 9 |
| 不登校と家庭環境 | 10 |
| 少年犯罪と家庭環境 | 11 |
| 発達障害と犯罪 | 12 |
| 犯罪と親子関係 | 13 |
| 友だちと双子コーデ | 14 |
| 同一化とマネする心理学 | 15 |
| 認められたい心理 | 16 |



<人物研究>

| | |
|---------------------------------|----|
| アルフレッド・アドラー (Alfred Adler) | 18 |
| アルバート・バンデューラ (Albert Bandura) | 19 |
| アルフレッド・ビネー (Alfred Binet) | 20 |
| エリック・エリクソン (Erik H. Erikson) | 21 |
| ジークムント・フロイト (Sigmund Freud) | 22 |
| バラス・フレデリック・スキナー (B. F. Skinner) | 23 |
| アブラハム・マズロー (Abraham Maslow) | 25 |



おわりに 26



事例研究



事例1-1 親子の心理

小学校1年生男子A君

4月、A君は小学校に入学し、弟は幼稚園に入園した。弟はマイペースで手がかかるが、兄のA君は積極的に責任感もある。しかし、6月に入り、A君は隣席の児童の髪をひっぱったり、ノートに落書きをしたりする姿が見られるようになった。さらに、読書推進の本読み競争では群を抜いて1位だが、実際は読んでいないものも入れているようである。本人に訊いても、「そんなことはしていない」の一点張り。そのうちに登校さえ渋りだし、6月末から「おなか痛い」と休みがちになった。医者に診てもらってもどこも悪くないという。共働きの両親もどうしてよいかわからず、母は子どもをおいて仕事に出るのが心配になり、両親でA君の登校を促したが、かえって全く行かなくなってしまった。父は、仕事を早く切り上げて、毎日A君とキャッチボールや散歩をするようにした。10日ほど経ったある日、「今日は何をする?」ときくと、A君が「すもう!」と飛びついてきたため、父はA君に対してうれしい気持ちが湧いてきた。妻も毎晩本を読んでやっている。夏休みはゆっくりして2学期から登校できればよいと、両親は思っていたが、相撲をした翌日、夏休みの3日前からA君は登校を始め、今では毎日のようにクラスの友人たちと仲良く遊んでいる。

【1. 愛着とは】

愛着(アタッチメント):特定の人に対する情緒的な絆。
人間が生まれながらに備えているわけではなく、成長の過程で周りの人々との関わりを通じて獲得する。

【2. 愛着障害のある子どもの特徴】

愛着障害(アタッチメント障害):特定の養育者との愛着形成がうまくいかないことで現れる困難の総称。

- ・理由もなく怯えたり、落ち込んだり、イライラしたり
- ・不眠
- ・食欲不振
- ・身体が平均より小さい
- ・体調を崩しやすい
- ・物や人を噛んだり叩いたりする
- ・嘘をつく、謝れない
- ・自分を傷つけるような行動に出る場合がある
- ・大人を試すような行動に出る
- ・自己評価が低い

【3. 愛情の必要性】

親子の「愛情」をテーマにした、『明日ママがいない』というテレビドラマでは、倒産で両親も家も失い施設に来た女の子がいた。この子どもの父親はピアノの才能を伸ばすためにピアノを買いたいが、お金がないと嘆くシーンがあった。そこで、この施設の園長が「名前を呼んであげるだけでいい」と言ったところ、お互い抱きしめ涙を流し合った。反対に、お金持ちで不自由のない生活をしてきた子どもがいたが、この子どもは親からの愛情

がなく、自らの体に傷をつける場面もあった。このように、子供は親の愛情を必要としている。

まとめ

- ・子どもが親からの愛情不足であったとしても、子ども自身は「自分は愛情不足だ」と気づくことはできない。
- ・A君や上記の施設にいる子どもたちの例のように、愛情不足が無意識的に形となり、自分や周りの人々を傷つけてしまうことがある。
- ・子どもが愛情不足の場合、その親は「自分の愛情は子どもに対して不足している」と考える可能性は低いはずだ。したがって、「第三者」、つまりは学校や相談機関、施設等で、毎日児童生徒と関わっている教員や関係者が、気づき、対応する必要がある。



<引用・参考文献>

子安増生・仲真紀子(編著) ころろが育つ環境をつくる 発達心理学からの提言 新曜社
坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子 問からはじめる発達心理学—生涯にわたる育ちの科学 有斐閣
高橋恵子 子育ての智恵 幼児のための心理学 岩波新書
LITALICO 仕事ナビ「愛着障害とは?」

<https://snabi.jp/article/143> (2020.11.2現在)

『明日ママがいない』から考える親子関係と自律の心理

<https://news.yahoo.co.jp/byline/usuimafumi/20140314-00033528/> (2020.11.2現在)

事例1-2 きょうだいの心理

小学校1年生男子A君

4月、A君は小学校に入学し、弟は幼稚園に入園した。弟はマイペースで手がかかるが、兄のA君は積極的に責任感もある。しかし、6月に入り、A君は隣席の児童の髪をひっぱったり、ノートに落書きをしたりする姿が見られるようになった。さらに、読書推進の本読み競争では群を抜いて1位だが、実際は読んでいないものも入れているようである。本人に訊いても、「そんなことはしていない」の一点張り。そのうちに登校さえ渋りだし、6月末から「おなかが痛い」と休みがちになった。医者に診てもらってもどこも悪くないという。共働きの両親もどうしてよいかわからず、母は子どもをおいて仕事に出るのが心配になり、両親でA君の登校を促したが、かえって全く行かなくなってしまった。父は、仕事を早く切り上げて、毎日A君とキャッチボールや散歩をするようにした。10日ほど経ったある日、「今日は何をする?」ときくと、A君が「すもう!」と飛びついてきたため、父はA君に対してうれしい気持ちが湧いてきた。妻も毎晩本を読んでやっている。夏休みはゆっくりして2学期から登校できればよいと、両親は思っていたが、相撲をした翌日、夏休みの3日前からA君は登校を始め、今では毎日のようにクラスの友人たちと仲良く遊んでいる。

【1. カイン・コンプレックスとは】

カイン・コンプレックス：コンプレックスの一種。兄弟・姉妹への競争心と嫉妬が入り混じる心理であり、親の愛を独占したいという気持ちから生じる。

旧約聖書『創世記』の物語から命名。農夫の兄カインと羊飼いのアベルが共に神にささげ物をしたが、神はアベルのささげ物にのみ目を留めた。兄カインは怒りのあまり、弟アベルを殺害した。重要な人物の評価や愛情をめぐるコンプレックス。

<例>・学業や仕事の成績 ・容姿
・男らしさや女らしさ ・スポーツの能力 など。

【2. きょうだい間の性格の違い】

アドラー心理学では、いわゆる「性格」の形成には、家族の配置関係(親がいる、兄弟姉妹が何人いる…など)が大きく影響し、その中でも親との関係性よりも、むしろ兄弟姉妹の誕生順位の影響を受けるとされている。

(1) 長子の性格

- ・両親にとって初めての子どものため、慎重な子育て。
→ 真面目で慎重な性格。
- ・弟や妹が生まれると「お兄(姉)ちゃんだから我慢して」「妹(弟)の面倒をみて」としつけられるので、我慢強く弱音をあまり出さない。
- ・下の子が生まれた途端100%の愛情が奪われたと感じ、それを取り戻すために何事も頑張る。あるいは、同胞葛藤(「赤ちゃん返り」「退行」)を示す。
- ・他よりも優越の地位を占めなければならないと考える。
- ・完璧主義でプライドが高い。
→ 「できない」と言えずに苦しむ

(2) 中間子の性格

- ・長子と別の道を歩む(長子とライバル関係になりやすく、親からの愛情や関心、注目を得るため)。
- ・仲介者で平和主義者。
- ・柔軟性があるが自分がない。

(3) 末っ子の性格

- ・年が離れていればいるほどかわいがられる。
- ・男性は思春期を過ぎると、「ノリがいい」「お調子者」という性格で語られることも。
- ・過度に親や兄姉が尻拭いしてしまうと「何か起きても誰かがどうにかしてくれる」という思考から「今を楽しく生きるのが一番」という刹那的な思考が強い性格に。
- ・弱さや小ささをもって育つので劣等感を持ちやすい傾向がある反面、自分の能力に自信が持てると成功者に。

(4) 1人っ子の性格

- ・親の愛情や関心、注目を一身に受け甘やかされて育つ。
- ・自分は特別であるという感覚。
- ・大人との付き合い方が上手。
- ・独立的、あるいは依存的。

まとめ

- ・生まれた順番は性格形成に影響する可能性が高いこと、長子・中間子・末っ子のどの立場においてもきょうだいがいるからこそその悩みがある。
- ・きょうだい同士で、よい関係を築けるようにするには、親が平等に愛する心掛けがとても大事。
- ・教員はこうした児童生徒を発見したとき、また相談を受けたとき、その子どもの家族構成や家庭での様子、学級での様子を観察し、SOSをみつけなければならない。そのためにも保護者と連携を図り、いち早く児童生徒の異変に気づける教員になる。

<引用・参考文献>

安藤寿康 「心は遺伝する」とどうして言えるのか ふたご研究のロジックとその先へ 創元社

「臨床心理学用語事典/カイン・コンプレックス」<http://rinnsyou.com/archives/282> (2020年11月2日閲覧)

マイナビウーマン「兄弟構成は性格に関係する?構成別タイプまとめ」<https://woman.mynavi.jp/article/161115-80/> (2020年6月2日閲覧)

「誕生順位が性格の形成に与える影響について」<http://feel555.jp/archives/1001> (2020年11月2日閲覧)

事例2 思春期の心理

高校2年生男子 B 君

両親と大学生の姉との4人暮らし。高校に入学以来、なんとなくやる気がなくなり、だんだんと授業をさぼるようになった。タバコを吸っていたところを見つけられ、1週間の停学。2年生の1学期は、朝起きるのがつらくて、ほとんど登校しなかった。母は、「これまで問題も起こさず、申し分のない子だったのに、どうしてこんなことになってしまったのか」と悲しんでいる。父は、子どもの教育に関心がなさそうである。最近、母はB君の自室の壁にいくつか穴が開いているのを見つけ、両親は、B君の今後の生活について相談をした。ある日、父は、帰宅後、B君に自分の高校時代の話をした。自分と両親のこと、友達とのこと、将来を悩んでいたことなど。B君は黙って聞いているだけだった。

その1週間後、B君は父に、「自分が何をしたいのかわからない。このままでいいとは思っていない。でもどうしていいのかわからない」と打ち明けたところ、父は「時間をかけてゆっくり決めたらいい」と言った。またしばらくして、B君は両親に「自分の進む道を探したい。だから1年留年する。待って欲しい」と話した。母はじっと聞き終わると小さく微笑み、父は母の顔を見ながらうなずいていた。

【1. 思春期】

第二性徴期、第二次反抗期の時期を含み、身体的にも精神的にも大きな変化を経験する時期。その発達時期の特徴として、身体の性的成熟や知的能力の拡大、自我同一性の芽生え、親からの独立、親友関係の成立など。

【2. 第二次反抗期】

自分の受け止めにくい考え方や価値観に対して、拒否反応を示し違和感を抱いて大人に抵抗する。しかし、最近、反抗期のない子どもも多いといわれる。

【3. 自我同一性・アイデンティティの獲得】

「自分とは何者なのか」という疑問に対し、「自分とはこうだ」という自覚を持つこと。また、「自分は何者であるのか」「これからどう生きていくのか」という問いの答えを求めて思い悩む時期。

【4. 思春期の特徴】

○男子の特徴

- ・暴力的言動
- ・物に当たる
- ・壁や机を叩く
- ・母親に暴言を吐く
- ・部屋に閉じこもる



○女子の特徴

- ・男性的言葉遣い

○共通の特徴

- ・挨拶や返事をしない
- ・化粧や髪を染めるなど服装が乱れる
- ・喫煙などの不良行為を試す など。

【5. 思春期の子どもへの対応】

- ・否定から入らない

→ 良いと思っておこなった言動を否定されると、かなり反抗的な気持ちが強くなる。

- ・決めつけた言い方をしない

→ いくつかの注意点を挙げ、メリハリをつけるような支援することは必要だが、親が自分の意見を押し付け、子どもの意見は間違えと決めつけることは子どものことを傷つけ、反抗的な気持ちを助長させてしまう恐れがある。

- ・周りの子どもと比較しない

→ 比較をして、叱りつけられるのは子どもにとって不愉快なことであり、子どもの怒りを買うことになるため、他人とは比較せず、それぞれの子どものペースを信じて温かく見守る必要がある。

まとめ

- ・B君は、喫煙や壁に穴をあけていることから、思春期の特徴が出ていると考えられた。
- ・教育に関心が無かった父がB君に対して、自分のことを話したことによって、B君が自分の思いを両親に話した。このことから、母だけがB君に向き合うのではなく、父もB君に向き合い、普段から家族内で話す環境を作ることが必要。この環境を作ることですこ細なことでも両親に打ち解けやすくなる。

<引用・参考文献>

高木秀明(監) 挫折と向き合う心理学 青年期の挫折を乗り越えるための心の作業とその支援 福村出版

藤森旭人 小説・漫画・映画・音楽から学ぶ 児童・青年期のこころの理解 ー精神力動的な視点からー ミネルヴァ書房

「発達心理学2. 青年期の発達心理学」

<http://www.n-seiryu.ac.jp/~usui/koneko/3hattatu2.html>
(2020/10/30 閲覧)

「【反抗期とは?】中学生の反抗期と向き合う時に知っておきたいこと」
<https://studysapuri.jp/course/junior/parents/kosodate/article-96.html> (2020/10/27 閲覧)

「思春期の子供の反抗期に対処する方法と悪化させてしまう親のNG言動」
<https://fumakilla.jp/foryourlife/34/> (2020/10/28 閲覧)

事例3-1 ストレスの種類と解消法

中学校2年生女子C

Cは小学校5年生の時に同じクラスの女兒たちとのトラブルから、同級生とうまく人間関係をつくれなくなった時期があった。それでも小学生の間は、休みながらも登校していた。

Cは中学校へ入学したが、夏休み明けから保健室へ来ることが多くなった。体調は悪くないが、養護教諭が尋ねてもはっきりとした理由は言わなかった。教科によっては授業に出ることもあったが、保健室で過ごすことが多くなった。そうしたある日の夜、Cは母親に「学校に行きたくない」「昼休みになっても話す相手がいない」と泣きながら訴えた。母親は、Cを励ますとともに担任の先生に相談するように話した。相談を受けた担任は「自分からも声をかけるようにする」とCに伝え、Cのクラスでの人間関係を調査したところ、LINEや掲示板などでCに関するうわさや書き込みがあるようだった。

2学期の中間試験はすべて白紙で提出した。中間試験の後は、母親が登校しつづけるCを学校に送るが、保健室で過ごしたり、早退したりしていた。11月にはCはまったく登校しなくなり、家庭では小学校4年生になる弟にけんかをしかけたり、暴言を吐いたりするようになっていった。

2年生になった今では学校に行く気力が全くなくなり、学校のことを考えるだけで頭痛がし吐気がする。以前も同じような症状があったが、もっと軽かったので、来年の受験のためにも周りの人たちに迷惑をかけないためにも通学していた。しかしあまりにも苦しいので、「1日だけ」と思って学校を休んだところ、1日休むともう学校に行くのも怖くて行けなくなった。両親は学校に関しては厳しく、今の状況も理解してもらえないので、Cが学校に行かないと毎日口論が絶えない。

【1. ストレスとは何か？】

ストレス：もともと「外部からの圧力によって起こるゆがみ」を意味するもの。

<例>・ボールを押してへこんだ状態：ストレス反応

・押す指：ストレッサー（ストレス原因）

【2. ストレスを引き起こす原因】

- ・物理的ストレッサー（温度や騒音など）
- ・化学的ストレッサー（酸素欠乏、薬、栄養不足など）
- ・生物的ストレッサー（病気、コロナなど）
- ・精神的ストレッサー（人間関係、怒り、不安など）

*現代ストレスの多くは、精神的ストレッサーによる。

【3. 適切なストレス発散法】

ストレスを抱える若者のための「こころと体のセルフケア」（厚生労働省）。

（1）体を動かす

- ・運動にはネガティブな気分を発散させ、こころと体をリラックスさせ、睡眠リズムを整える作用。
- ・1日20分目安。「ああ、スッキリした！」と思えるくらいの軽さを目標に。

（2）今の気持ちを書いてみる

- ・今抱えている悩みと距離を取り客観的に眺め、新たな選択肢に自分で気づけるようになる。
- ・人に見せないことを前提に、ありのままの気持ちを。

（3）腹式呼吸を繰り返す

・背筋を伸ばし軽く目を閉じ、おなかに手を当てる。まず、ゆっくりと口から息を吐き出し、次に鼻から息を吸い込む。これを5～10分位繰り返す。

（4）「なりたい自分」に目を向ける

- ・理想を思い浮かべ、実現したとき自分や周囲がどのように変わっているか具体的イメージを浮かべる。
- ・小さいけれども重要と思える目標を立て、実行。最初の目標をクリアしたら、自分をほめる。1つずつクリアしていくことで自分の力で自信を取り戻していく。

（5）音楽を聴く・歌を歌う

- ・音楽はごく自然に人のこころと体を癒す。
- ・アップテンポの音楽は、エネルギーや活力を与え、優しくスローな曲は不安や緊張をやわらげる。

（6）失敗したら笑ってみる

- ・「笑い」にはこころを軽やかにして、つらい日々を乗り越える力がある。失敗したら自分を責めたり恥じたりせず、潔く認め、自分を笑い飛ばすことが大事。

まとめ

- ・Cはうわさや書き込みから人間関係をうまく築けない状態にあり、精神的ストレッサーが主なストレスの原因になっていると考えられる。
- ・ストレスを発散する場所がなく、弟にぶつけていたので、教員や親は日頃から児童生徒の観察を重点的に行い、すぐに解決できるような場やストレスを発散できる場所の確保をする必要がある。
- ・環境の変化により、性格が明るく学校を休まない子どもが不登校になることもある。環境の変化に適應できない児童生徒をしっかりサポートする。
- ・Cのように以前から兆候があった場合は、前担任や小中学校の教員の連携を取り、少しでも不安やストレスの原因を取り除く。

<引用・参考文献>
鹿毛雅治（編）パフォーマンスがわかる12の理論 金剛出版
Fujimoto Medical System 「ストレスについて」http://www.fujimoto.or.jp/home-medicine/psychiatry/p_5/index.php（2020年10月23日現在）
厚生労働省「こころもメンテしよう～若者を支えるメンタルヘルスサイト～」
<https://www.mhlw.go.jp/kokoro/youth/>（2020年10月23日現在）

事例3-2 対人恐怖症

中学校2年生女子 C

Cは小学校5年生の時に同じクラスの女児たちとのトラブルから、同級生とうまく人間関係をつくれなくなった時期があった。それでも小学生の間は、休みながらも登校していた。

Cは中学校へ入学したが、夏休み明けから保健室へ来ることが多くなった。体調は悪くないが、養護教諭が尋ねてもはっきりとした理由は言わなかった。教科によっては授業に出ることもあったが、保健室で過ごすことが多くなった。そうしたある日の夜、Cは母親に「学校に行きたくない」「昼休みになっても話す相手がいない」と泣きながら訴えた。母親は、Cを励ますとともに担任の先生に相談するように話した。相談を受けた担任は「自分からも声をかけるようにする」とCに伝え、Cのクラスでの人間関係を調査したところ、LINEや掲示板などでCに関するうわさや書き込みがあるようだった。

2学期の中間試験はすべて白紙で提出した。中間試験の後は、母親が登校したがらないCを学校に送るが、保健室で過ごしたり、早退したりしていた。11月にはCはまったく登校しなくなり、家庭では小学校4年生になる弟にけんかをしかけたり、暴言を吐いたりするようになっていった。

2年生になった今では学校に行く気力が全くなくなり、学校のことを考えるだけで頭痛がし吐気がする。以前も同じような症状があったが、もっと軽かったので、来年の受験のためにも周りの人たちに迷惑をかけないためにも通学していた。しかしあまりにも苦しいので、「1日だけ」と思って学校を休んだところ、1日休むともう学校に行くのも怖くて行けなくなった。両親は学校に関しては厳しく、今の状況も理解してもらえないので、Cが学校に行かないと毎日口論が絶えない。

【1. 対人恐怖症とは】

対人場面で不当な不安や緊張が生じ、嫌がられないか、不快感を与えないかと考え、対人関係から身を引こうとし日常生活に支障が出る神経症の一種。

<対人恐怖症の特徴>

・対人恐怖症は育った環境や性格が影響する場合も。

- ① 親から厳しく叱られる環境
- ② 幼いころから人見知り

<対人恐怖症の種類>

- ①赤面恐怖
- ②スピーチ恐怖
- ③対人恐怖
- ④視線恐怖
- ⑤会食恐怖
- ⑥電話恐怖
- ⑦書痙
- ⑧排尿恐怖
- ⑨自己臭恐怖
- ⑩腹鳴恐怖

・Cさんは③の対人恐怖と④の視線恐怖の可能性。

【2. 対人恐怖と視線恐怖】

- ・対人恐怖：学校や会社で、自分以外の人は皆仲が良さそうに見え、自分が孤立したように感じる。他人との付き合い方やコミュニケーションの方法が分からない。他人の存在を過剰に意識し、緊張感や苦痛を感じる。
- ・視線恐怖：人が自分に注目して、噂をしている気がする、自分の行動を観察されているような気がする、といった他人の視線が怖いタイプと、自分の視線が相手に嫌な感じを与えていないか不安になるタイプ。

*Cさんの親は学校に関して厳しく、Cさんが学校に行かないと毎日口論になる。親と激しく口論することで、

視線や相手の顔色を過度にうかがうようになり、対人恐怖症傾向があると考えられる。

【3. 対応】

- ① 日ごろから子どもの様子をよく観察。
→ 子どもたちの問題を事前に防ぐことができる。
- ② 病気などを理由に3日休んだ場合必ず本人に連絡。
→ 頻繁に家庭訪問、本人の気持ちに沿って話を聞く。
- ③ 不登校が長期化した場合、登校よりも本人自身が元気なることを考える。
→ 定期的に家庭訪問、児童生徒本人が元気でいてくれることが大切だと伝わる態度で対応。
- ④ 事情が明らかになるに応じてその後の対応を検討。
→ 学校か、家庭かの問題によって対応が変わる。

まとめ

- ・対人恐怖症は、「心の持ちよう」「性格の問題」と思われがちで、なかなか気づいてもらえず、相談できずに1人で悩む人が多い。
- ・現代はSNSで気軽に書き込みを読み、書ける。そのため、対人で話す事の大切さを教えつつ、対人恐怖症は一種の病気であることを教え、悩んでいる人がいたら理解しあえる環境を心がけていく。
- ・対人恐怖症は、本人自身や家族が気づくことはとても困難。問題を解決するには、保健室登校や、学校に行きたくない原因を突き止めることも大切だが、本人の安全、元気であることを一番に考え、登校できる環境を作ることが大切。児童生徒の様子を把握し、異変に気づけばすぐに対策をする。

<引用・参考文献>

高木秀明(監) 挫折と向き合う心理学 青年期の挫折を乗り越えるための心の作業とその支援 福村出版
神谷かつ江(2009). 問題を抱えた生徒に対する対応 東海学院大学短期大学部紀要 35 pp. 25-32.
医療法人和楽会「対人恐怖症ってどんな病気」<http://www.fuancclinic.com/byouki/orange.htm> (2020/10/17 現在)

事例3-3 不登校と家庭環境

中学校2年生女子 C

Cは小学校5年生の時に同じクラスの女児たちとのトラブルから、同級生とうまく人間関係をつくれなくなった時期があった。それでも小学生の間は、休みながらも登校していた。

Cは中学校へ入学したが、夏休み明けから保健室へ来ることが多くなった。体調は悪くないが、養護教諭が尋ねてもはっきりとした理由は言わなかった。教科によっては授業に出ることもあったが、保健室で過ごすことが多くなった。そうしたある日の夜、Cは母親に「学校に行きたくない」「昼休みになっても話す相手がいない」と泣きながら訴えた。母親は、Cを励ますとともに担任の先生に相談するように話した。相談を受けた担任は「自分からも声をかけるようにする」とCに伝え、Cのクラスでの人間関係を調査したところ、LINEや掲示板などでCに関するうわさや書き込みがあるようだった。

2学期の中間試験はすべて白紙で提出した。中間試験の後は、母親が登校しづらいCを学校に送るが、保健室で過ごしたり、早退したりしていた。11月にはCはまったく登校しなくなり、家庭では小学校4年生になる弟にけんかをしかけたり、暴言を吐いたりするようになっていった。

2年生になった今では学校に行く気力が全くなり、学校のことを考えるだけで頭痛がし吐気がする。以前も同じような症状があったが、もっと軽かったので、来年の受験のためにも周りの人たちに迷惑をかけないためにも通学していた。しかしあまりにも苦しいので、「1日だけ」と思って学校を休んだところ、1日休むともう学校に行くのも怖くて行けなくなった。両親は学校に関しては厳しく、今の状況も理解してもらえないので、Cが学校に行かないと毎日口論が絶えない。

【1. 不登校とは】

「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの。」(文部科学省)

○不登校となった直接のきっかけ(平成30年度文科省)

・国公立小学校：学校生活(30.8%)・家庭環境(55.5%)・その他(13.7%)

・国公立中学校：学校生活(55.7%)・家庭環境(30.9%)・その他(13.4%)

学校での生活や家庭環境が大きな割合を占めていることから、学校や家庭での対応や変化が必要不可欠である。また、発達障害について新たに指摘されている。周囲との関係がうまく構築できず、学習のつまずきが克服できないといった状況が進み、不登校に至るケースが多い。

【2. いじめっ子・いじめられっ子の心理】

学校では「いじめを無くそう！」をスローガンに掲げていることが多いが、一向に無くなる気配がない。その中で、「いじめの問題は親の責任だ」と議論されていることがある。アメリカ、カナダ、スウェーデンの3大学が1,409人の思春期の男女対象に行った共同研究によると、いじめを起す子どもの親は、子どもに冷笑的、敵対的な態度であり、また、日常的に親から皮肉や批判を言われている子どもは、怒りをコントロールできない。

<いじめっ子の特徴>

愛されたい・かまってほしい・嫉妬心・自己肯定感が低い・情緒不安定 など。

<いじめられっ子の特徴>

家庭環境が周りと違う・暗い・ネガティブ・何かが優れている/劣っている など。

【3. 家庭での対応】

自分の子どもが不登校になった時、親は不安や疑問、怒りといった様々な感情を抱くが、それらを直接ぶつけても、いい結果にはならない。逆に、腫れ物に触るように接すると、子どもにとってプレッシャーとなる。

<すべきこと>

しっかりと向き合う・愛情を持って接する・言動や行動の記録・学習環境の整備・役割を与える・父母のコミュニケーションをよくとる など。

<してはいけないこと>

行動の制限・過剰な心配・考えの否定・比較 など。

まとめ

- ・「学校からいじめを無くそう」と言うが、学校からいじめはなくならない。なぜなら、学校生活だけではなく家庭環境も関わってくるからである。
- ・いじめをなくすには親子間の見直しが必要であり、学校はそれらのサポートをすることしかできない。教員は、「いじめ」と向き合う際、子どもだけをみて解決しようとするのではなく、その家庭とも向き合う必要がある。

<引用・参考文献>

阿部泰尚 保護者のためのいじめ解決の教科書 集英社新書

文部科学省 不登校の現状に関する認識 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/futoukou/03070701/002.pdf (2020.11.9現在)

文部科学省 平成30年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について <https://www.mext.go.jp/content/1410392.pdf> (2020.11.9現在)

マイベストプロ「いじめっ子の心理とは？原因は親や家庭環境に。親として考えるべき役割と接し方」[https://mbp-japan.com/jiijico/articles/29204/\(2020.11.9現在\)](https://mbp-japan.com/jiijico/articles/29204/(2020.11.9現在))

不登校サポートナビ「子どもが不登校になった時、親は何をするべきなのか？」<https://www.futoukou-navi.com/note/kihon/hogosha.html> (2020.11.9現在)

事例4-1 少年犯罪と家庭環境

中学校2年生男子 D

両親と3人暮らし。実父母は本人が出生3カ月後に離婚。実母は仕事のために、Dを母方実家に預け、祖父母の協力を得て育てた。Dが小3のときに継父と再婚し、その6か月後、異父弟が出生した。

幼少時より人見知りはなく多動の傾向があり、思い通りにならないと暴れるため、他児と友好的に遊べず、小4頃にはクラスで浮いている存在であったが、運動部に所属していた。Dによれば、実母は幼少時から体罰を振るうことが多く、怒ると目つきが変わり、かなりひどく叩いたという。

小5のときに、親の財布からお金を持ち出して家出をしたが、すぐに連れ戻された。中学入学後、親子げんかが激しくなり、Dが髪を染めたことなどに対し、実母から体罰を加えられた。中1の夏、再び家の金を持ち出して家出し、他の県で補導された。中1の3学期には万引きで通告があり、児童相談所で母子指導が開始されたが、指導中も万引きで複数回補導された。Dによれば、万引きは日常的にやっており、外出時は財布を持たず、ほしいものがあれば万引きしていた。その後も、公共物へのいたずらや飲酒・喫煙、中学での服装違反、遅刻、不登校などが続いている。

【1. 刑法犯少年の罪種別・両親の状態別状況】

少年非行、児童虐待及び子供の性犯罪の統計（警視庁）

資料22 刑法犯少年の罪種別・両親の状態別状況

| 罪種 | 数(人) | 両親あり | | 父あり母なし | | 母あり父なし | | 両親なし | | 不明 |
|---------|--------|-----------|-----------|----------|----------|----------|------------|--------|----|-----|
| | | 母親が主たる養育者 | 父親が主たる養育者 | 父・母共に養育者 | 父・母共に養育者 | 父・母共に養育者 | 母・祖父母共に養育者 | | | |
| 窃盗 | 23,489 | 13,282 | 51 | 743 | 212 | 1,499 | 36 | 7,384 | 56 | 202 |
| 強盗 | 463 | 323 | 3 | 26 | 3 | 9 | 0 | 108 | 0 | 12 |
| 詐欺 | 254 | 123 | 3 | 15 | 2 | 17 | 0 | 84 | 0 | 7 |
| 性被害 | 35 | 21 | 0 | 1 | 1 | 0 | 12 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 139 | 86 | 0 | 9 | 0 | 6 | 34 | 0 | 1 | 0 |
| 合計 | 3,623 | 2,132 | 6 | 111 | 16 | 17 | 6,276 | 6 | 37 | 20 |
| 少年非行 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 児童虐待 | 1,902 | 547 | 0 | 35 | 4 | 63 | 1 | 1,311 | 2 | 11 |
| 性被害 | 2,090 | 1,264 | 6 | 69 | 20 | 131 | 1 | 1,719 | 2 | 20 |
| その他 | 150 | 81 | 0 | 3 | 3 | 8 | 6 | 69 | 0 | 2 |
| 合計 | 379 | 176 | 0 | 16 | 6 | 12 | 0 | 153 | 2 | 4 |
| 合計 | 13,163 | 7,169 | 28 | 434 | 41 | 1,615 | 7 | 10,520 | 39 | 141 |
| 少年非行 | 1,135 | 690 | 7 | 46 | 7 | 0 | 0 | 5 | 3 | 20 |
| 児童虐待 | 1,905 | 548 | 0 | 42 | 7 | 74 | 0 | 1,280 | 3 | 19 |
| 性被害 | 15 | 9 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 4 | 0 | 0 |
| その他 | 75 | 43 | 1 | 2 | 0 | 3 | 6 | 24 | 0 | 1 |
| 合計 | 527 | 402 | 1 | 16 | 5 | 21 | 0 | 85 | 1 | 4 |
| 少年非行 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 児童虐待 | 537 | 298 | 1 | 16 | 5 | 23 | 0 | 244 | 1 | 4 |
| 性被害 | 4,548 | 2,486 | 2 | 104 | 29 | 178 | 1 | 4,038 | 10 | 48 |
| その他の刑法犯 | 2,531 | 1,320 | 1 | 47 | 22 | 143 | 1 | 759 | 12 | 28 |

資料23 刑法犯少年の罪種別・母親の不在状況

| 罪種 | 数(人) | 少年と同居 | | | 親がいないが同居している | | 少年と別居 | 母なし |
|---------|--------|-----------|--------|----------|--------------|-------|-------|-----|
| | | ほとんど毎日暮らす | 頻りに暮らす | 頻りに暮らさない | ほとんど暮らさない | | | |
| 窃盗 | 23,489 | 12,912 | 543 | 0 | 296 | 3,917 | 3,331 | |
| 強盗 | 463 | 146 | 12 | 0 | 9 | 30 | 106 | |
| 詐欺 | 254 | 146 | 6 | 0 | 1 | 48 | 69 | |
| 性被害 | 35 | 17 | 2 | 0 | 0 | 10 | 5 | |
| その他 | 139 | 66 | 3 | 0 | 0 | 29 | 27 | |
| 合計 | 3,623 | 1,811 | 85 | 0 | 10 | 113 | 147 | |
| 少年非行 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 児童虐待 | 1,902 | 543 | 19 | 27 | 17 | 160 | 139 | |
| 性被害 | 2,090 | 1,070 | 49 | 17 | 2 | 20 | 23 | |
| その他 | 150 | 82 | 4 | 0 | 0 | 6 | 26 | |
| 合計 | 379 | 208 | 12 | 17 | 1 | 63 | 56 | |
| 合計 | 13,163 | 7,169 | 311 | 0 | 25 | 2,670 | 2,474 | |
| 少年非行 | 1,135 | 554 | 20 | 12 | 17 | 173 | 200 | |
| 児童虐待 | 1,905 | 511 | 17 | 45 | 17 | 161 | 136 | |
| 性被害 | 15 | 6 | 0 | 0 | 0 | 2 | 6 | |
| その他 | 75 | 37 | 3 | 7 | 0 | 19 | 14 | |
| 合計 | 527 | 167 | 5 | 14 | 2 | 215 | 170 | |
| 少年非行 | 4 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | |
| 児童虐待 | 537 | 311 | 8 | 19 | 17 | 100 | 71 | |
| 性被害 | 4,548 | 2,486 | 110 | 14 | 25 | 315 | 248 | |
| その他の刑法犯 | 2,531 | 1,320 | 52 | 42 | 31 | 275 | 407 | |

- ・刑法犯少年数は母子家庭、ついで、父子家庭が多い。
- ・父子家庭は割合に差はみられず（10%未満）、母子家庭では凶悪犯、粗暴犯、知能犯、その他の刑法犯などの項目で全体の30%以上。

また、母親と少年の関係と犯罪の割合を示す統計では、

- ・日中母親が働きに出ている場合、その次にほとんど家にいる場合、少年と別居している場合と続く。
- ・「母親がほとんど家にいる」場合の割合が高く、約15%～20%を占めるが、凶悪犯の割合だけ「少年と母親が別

居している」場合の割合が高く、全体の23%。

→ 少年犯罪と家庭環境には何らかの関係性がある。

【2. 離婚による子どもへの影響】

- ・精神的に不安定に：親の愛情によって「自分は愛されている存在」と認識し愛情や信頼感を抱くが、一方がいなくなると、愛情不足で不安から心のダメージに。
- ・コミュニケーション能力の低下：親は働くことに忙しく、子どもと話す機会が減ったまま育ち、学校に行ったときにも友達と上手くコミュニケーションが取れない。
- ・依存症になりやすい：離婚によって親に不信を抱き反抗。「タバコ・酒・薬物」に手を出し、依存する。

【3. 再婚による子どもへの影響】

- ・新しい親に馴染めない：接し方がわからない。家庭環境の変化でストレスがたまり、子どもは「実の親が再婚相手に取られた」と思い、再婚相手に強く反抗。
- ・疎外感による孤独：実の親と再婚相手の仲が良い場合、子供はその輪に入れず疎外感を抱く。我が家に帰っても自分の居場所がなく、やがて孤独に。
- ・プラスになる場合も：今まで愛情をもらえなかった子どもは、新しい家族によって「愛されるようになるかもしれない」という期待感を抱く場合もある。

まとめ

- ・幼少期、親や家庭環境の変化によって、子どもは初めは戸惑いやショックを感じて反抗することもあるが、そこで親が子どもと向き合い、コミュニケーションを取る必要がある。
- ・統計では、母子家庭や父子家庭の子どもやほとんど家にいる母親、別居している母親を持つ子どもは犯罪の割合が比較的多いことから、ストレスが原因となり、罪を犯すことがあると考えられる。
- ・子どもは生まれてくる場所や環境を選べない。教員など周りの人たちのサポートでストレス要因を少しでも軽減させ、定期的な教育相談や面談で小さな変化に気づけるようにする。

<引用・参考文献>

警視庁「平成30年度中における少年の補導及び保護の概況」

<https://www.npa.go.jp/publications/statistics/safetylife/syonen.html> (2020年11月9日閲覧)

CLOVER「子供のことも考えて！離婚や再婚が子供に与える影響」

<https://www.minden.jp/clover/divorce-mental-effect-children/> (2020年11月9日閲覧)

事例4-2 発達障害と犯罪

中学校2年生男子 D

両親と3人暮らし。実父母は本人が出生3カ月後に離婚。実母は仕事のために、Dを母方実家に預け、祖父母の協力を得て育てた。Dが小3のときに継父と再婚し、その6か月後、異兄弟が出生した。

幼少時より人見知りはなく多動の傾向があり、思い通りにならないと暴れるため、他児と友好的に遊べず、小4頃にはクラスで浮いている存在であったが、運動部に所属していた。Dによれば、実母は幼少時から体罰を振るうことが多く、怒ると目つきが変わり、かなりひどく叩いたという。

小5のときに、親の財布からお金を持ち出して家出をしたが、すぐに連れ戻された。中学入学後、親子けんかが激しくなり、Dが髪を染めたことなどに対し、実母から体罰を加えられた。中1の夏、再び家の金を持ち出して家出し、他の県で補導された。中1の3学期には万引きで通告があり、児童相談所で母子指導が開始されたが、指導中も万引きで複数回補導された。Dによれば、万引きは日常的にやっており、外出時は財布を持たず、ほしいものがあれば万引きしていた。その後も、公共物へのいたずらや飲酒・喫煙、中学での服装違反、遅刻、不登校などが続いている。

【1. 非行の要因】

①生物的要因：生物・医学レベルの問題（発達障害・器質障害など）

②心理的要因：心理的外傷体験（いじめ、虐待などによる感じ方の変化）、情緒障害など

③社会・文化的要因：家族、学校、地域の間人関係

*従来は、②と③から説明されることが多かった。

→ ①についての科学的解明が進み、「わかりにくい」

「奇異」とされてきた少年像に新たな視点が加わる。

【2. ASDとADHDの特徴】

◎ASD ; Autism Spectrum Disorders（自閉症スペクトラム障害）対人的コミュニケーションおよび対人的相互交流の障害・極限された反復する行動や興味

◎ADHD ; Attention Deficit Hyperactivity Disorder

（注意欠陥多動性障害）不注意・多動性・衝動性

・「場違い」「常識はずれ」で、いじめの対象に。

・「落ち着きがない」「不注意」「何度も同じ間違いを繰り返す」ため、叱られてばかり。

*親のしつけ不足、愛情不足と決めつけられやすい。

↓

無力感、対人不信感が強まる（本人、親とも）。

↓

生来の不器用さ、バランスの悪さ、周囲の無理解（無気力）による孤独、刺激に対して過剰に反応。

【3. 対応】

①非行と処分に対する正確な知識を与える。

②親や教師などの環境側が障害について理解し、連携。

③可能な限り、本人にも障害について伝える。

④程度に応じて医療機関と連携。

【4. 対応上の留意点】

・指示を分かりやすくする。

⇒二重否定などは理解するのが難しい。

・危険な物や現象、犯罪への興味をチェックする。

⇒犯行以前から興味を示していることが少なくない。普段の発言や行動を振り返り、犯罪に繋がることがないか観察して、事件につながることを防ぐ。

・周囲の理解と環境の整備をする。

⇒障害について正しく理解されておらず、不適切な対応や虐待、いじめなどの被害にあっている場合も。親や教師など周囲の人間が発達障害について理解する。

まとめ

- ・発達障害がある人は脳科学的な特性を幼少期に見つけてもらえず、虐待やいじめを受けることで（2次障害）、社会に対する不信感が増し、その結果の行為が犯罪や非行となってしまふことも。
- ・発達障害がある人の中には、直感的な善悪の判断ができない場合も。周囲の人が生物学的要因を理解し、行動の説明をし、評価することが重要。
- ・受容・共感するだけでなく、本人たちの「分からなさ」を、周囲が理解し、支援をしなくてはならない。わかりやすい表現を用いて、彼らが理解しやすい言葉を選択する、普段からどのようなものに興味を示すのかを知っておくなど。
- ・実際に非行や問題行動を起こした場合は、特別扱いをするのではなく、一貫性のある毅然とした対応をする必要がある。

<引用・参考文献>

原仁（編） 新版 子どもの発達障害事典 合同出版
宮口幸治 ケーキの切れない非行少年たち 新潮新書
藤川洋子「少年非行と発達障害」

http://www.niye.go.jp/kikaku_houkoku/upload/project/268/26823.pdf (2020. 11. 10 閲覧)

NHK ハートネット「発達障害と向き合う少年院」
<https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/3/> (2020. 11. 10 閲覧)

事例4-3 犯罪と親子関係

中学校2年生男子 D

両親と3人暮らし。実父母は本人が出生3カ月後に離婚。実母は仕事のために、Dを母方実家に預け、祖父母の協力を得て育てた。Dが小3のときに継父と再婚し、その6か月後、異父弟が出生した。

幼少時より人見知りはなく多動の傾向があり、思い通りにならないと暴れるため、他児と友好的に遊べず、小4頃にはクラスで浮いている存在であったが、運動部に所属していた。Dによれば、実母は幼少時から体罰を振るうことが多く、怒ると目つきが変わり、かなりひどく叩いたという。

小5のときに、親の財布からお金を持ち出して家出をしたが、すぐに連れ戻された。中学入学後、親子けんかが激しくなり、Dが髪を染めたことなどに対し、実母から体罰を加えられた。中1の夏、再び家の金を持ち出して家出し、他の県で補導された。中1の3学期には万引きで通告があり、児童相談所で母子指導が開始されたが、指導中も万引きで複数回補導された。Dによれば、万引きは日常的にやっており、外出時は財布を持たず、ほしいものがあれば万引きしていた。その後も、公共物へのいたずらや飲酒・喫煙、中学での服装違反、遅刻、不登校などが続いている。

【1. 犯罪の原因】

犯罪を犯した青少年に対して「なぜ犯罪を犯したのか？」と聞いても、「わからない」と答える子どもが多い。青少年犯罪がその子どもが生きてきた人生で起こった様々な要素が重なることで発生するから。つまり、少年犯罪は自己肯定感や自尊感情の欠落、精神不安定が考えられる。「自分は愛されている」「存在する価値がある」という感情のベースは、養育者との関係で、幼少期からどれだけ愛されてきたかによって変わる。青少年犯罪は親との関わり方や、生活環境によって左右される場合も。

また、中学生の時期は非行の好発時期。警察庁(2015)のまとめによると、平成26年の刑法犯少年の検挙人員は4万8,361人にも上る。子どもとその両親の関係を検討したところ、

- ・親子関係が親密でない、
- ・庭内暴力が多い
- ・親による子どもの監督が少ない

という3点が問題としてあげられた。

*D君は体罰を受けていた点において、この非行の原因は、親子関係(体罰)にあると考えられる。

【2. 犯罪の特徴】

①繰り返される家庭内暴力

犯罪者の家庭で特に多いものが家庭内暴力。幼少期から暴力に触れているため、暴力や人を傷つけることへのハードルが一般の人より低い。また、父から母へのDVを目撃した場合も、何らかの負の影響を与える(面前DV)。

②愛情不足

愛情不足や親の無関心も犯罪者の人格を形成する原因。人が嫌がることを楽しみ、人とのコミュニケーションが苦手であるなどの特徴がある。

犯罪はもちろん、不登校や引きこもりがちになる傾向も。

【3. 求められる親子関係】

- ①思いやりのある関係
- ②笑顔溢れる関係
- ③気軽に相談できるフレンドリーな関係
- ④本音で話し合える関係
- ⑤適度にお出かけなどができる関係

*子どもとの距離が近く何でも話し合える環境が重要！

まとめ

- ・親子関係だけでなく、教師としても、青少年犯罪の予防対策に努めることが重要。
- ・子どもの犯罪は、幼少期の親の育て方が大きく影響している。親はそんなつもりがなくても、些細な行動により子どもは愛情不足や孤独を感じてしまう。よって、親は子どもと沢山コミュニケーションをとり、家族団らんの時間が大事。
- ・教員として、児童生徒が寂しい思いをしていないか、悩みを抱えていないかなどを聞き、勉強面だけではなく心の面でもサポートする。
- ・D君は母親から体罰を受けていたことから、体罰が一つの原因で非行少年になったと考えられるため、親子関係を改善することが必要。しかし、親子関係を改善するためには、母親だけでは難しいと考えられるため、担任教員が児童生徒の異常を察知する必要がある。また、保護者に対しても家庭内で何があったのかなどの相談にのり、保護者についても把握し手助けをすることが求められる。

<引用・参考文献>

高木秀明(監) 挫折と向き合う心理学 青年期の挫折を乗り越えるための心の作業とその支援 福村出版

宮口幸治 ケーキの切れない非行少年たち 新潮新書

ママテナ「少年犯罪と家庭環境の関係、子を犯罪者にしないために親ができること」<https://www.mamatenna.jp/article/43114/> (2020/11/08 閲覧)

ひだかあさんの犯罪心理学「犯罪者の家庭環境に見られた3つの特徴！2つの貧困とベストな環境とは」

<https://hidaka-mother.com/criminal-family-environment> (2020/11/08 閲覧)

CHILD RESEARCH NET「中学生の非行傾向行為と親子関係、友人関係」<https://www.blog.crn.or.jp/report/02/206.html> (2020/11 /08 閲覧)

事例5-1 友だちと双子コーデ

高校生3人きょうだい（高校3年生女子E・高校2年生男子F・高校1年生女子G）の休日

3人きょうだいの長女の高校3年生 Eさんは、タピオカが大好き。休日には友だちとタピオカ店巡りをして、インスタグラムに投稿。「いいね!」の数が増えるのが楽しみ。

長男の高校2年生 F君は憧れの俳優の服装や持ち物と同じものを探して、ショッピング。姉と妹からは、どんなに似合わないと言われようとも、同じ格好を目指している。

次女の高校1年生 Gさんは、友だちと双子コーデをしてディズニーランドへ。最近では、相談しなくても、偶然に似たようなスタイルになることも多い。ディズニーランドの年間パスポートを購入したので、毎週のように出かけている。

【1. 双子コーデと流行とは】

・双子コーデ：主に友人関係にある2人の人が、同じ洋服や装飾アイテムを用いて、同一の全身コーディネートをし、双子のように演出するファッションの一つ。

・流行：社会の中の多くの人々が目新しく感じ、一時的にまね（同調）している装い・服装（衣服・被服、装飾・衣装）の様式。また、流行の動機として「個性を示したい」「他者と差をつけたい」という「差別化の欲求」と「他者と同じにしたい」「人と違うことはしたくない」という「同調の欲求」がある。

*Gさんの場合、友達と双子コーデ、すなわち服装や装飾などの恰好が同じことから、「同調の欲求」があるということが分かる。

【2. 双子コーデに関する調査】(市村・新井・今野、2018)

◎実験内容：双子コーデの経験と、双子コーデに対する評価、双子コーデをする理由についてアンケート調査。対象は女子大学生30名（平均年齢19.5歳）。

◎双子コーデの経験や認識について

- ・友達と同じものを持ったことがある 66.7%
(具体例：洋服 55%、アクセサリ40%、文房具 30%)
- ・双子コーデをしたことがある 26.7%
- ・双子コーデ未経験者で今後やってみたい 13.6%
- ・実際に双子コーデの人を見たことがある 83.3%

◎双子コーデをする理由

- ・流行しているから
- ・双子コーデをすること自体が楽しい
- ・関係性の確認
- ・ファッションセンスの向上

・仲良しアピール

・目立ちたい

・同じであることの安心感 など。

【3. スポットライト効果】

他人が自分の欠陥や間違いに非常に注目していると信じているために起こる。妄想の一形態であると言えるが、過度なナルシズムによるものではなく、何かしらの罪悪感を覚えている。他人に罪悪感を投影するため、心の中では、常に誰かに判断されているような錯覚に陥る。この効果に苦しむ人々は、他の誰よりも優れているというイメージを持ち続け、他人の意見を非常に気にするようになるが、一方では周囲の注意を引こうとする。

また、2014年にカリフォルニア大学で行われた研究によると、数人のグループでいたほうがより魅力的に見えることが判明した。脳はグループを集団そのものとして認識し、それぞれの顔を平均化して漠然と捉えてしまうため、一人ひとりよりも魅力的に評価するのではないかと分析されている。

まとめ

- ・双子コーデをする目的として、「周囲から注目を浴びたい」「他者との差を付けたい」「相手との関係性を深め、確認したい」と考えられた。
- ・労力や金銭を使い、社会で目立つ行為ができる友達がいることを周囲に見せることで、自分が称賛される感覚を味わっているとも考えられる。
- ・今回のGさんの場合、友達と双子コーデをしていることから、同調の流行が関係していることが分かった。

<引用・参考文献>

安藤寿康 「心は遺伝する」とどうして言えるのか ふたご研究のロジックとその先へ 創元社

安藤寿康 遺伝子の不都合な真実 すべての能力は遺伝である ちくま新書

鈴木公啓（編著）装いの心理学 整え飾るところと行動 北大路書房
市村美帆・新井洋輔・今野裕之（2018）「双子コーデ現象の心理学的検討」目白大学心理学研究 第14号 pp.57-68.

事例5-2 同一化とマネする心理

高校生3人きょうだい（高校3年生女子E・高校2年生男子F・高校1年生女子G）の休日

3人きょうだいの長女の高校3年生 Eさんは、タピオカが大好き。休日には友だちとタピオカ店巡りをして、インスタグラムに投稿。「いいね!」の数が増えるのが楽しみ。

長男の高校2年生 F君は憧れの俳優の服装や持ち物と同じものを探して、ショッピング。姉と妹からは、どんなに似合わないと言われようとも、同じ格好を目指している。

次女の高校1年生 Gさんは、友だちと双子コーデをしてディズニーランドへ。最近では、相談しなくても、偶然に似たようなスタイルになることも多い。ディズニーランドの年間パスポートを購入したので、毎週のように出かけている。

【1. 同一化と同一視】

・同一化：自分の尊敬する人や理想とする人の振る舞いや特徴を真似て欲求を満たそうとすることを防衛機制で同一化という。憧れのミュージシャンのしぐさやファッションを真似するという行動。

・同一視：他者の考えや状況を自分の体験であるかのように思うこと。

【2. 同一化の具体例】

- ・ファッションモデルの服装や髪形を真似する
- ・憧れの上司の口癖を真似する など。

【3. 芸能人の服装をマネする心理】

真似する人の共通点

①個性がない

自分らしさやオリジナリティがなく、流行やブームに乗りやすい傾向。周囲がやっているからと流れに乗りやすい人は、個性をアピールすることが苦手。

②自信がない

評価が高い人や人気がある人の真似をして、失敗回避。

③習慣化している

自分の考えや発想がないため、つい人の真似をする行為が習慣的に。真似をすることが癖になり、センスなどの見た目だけでなく、話し方や身振りなども真似をする。

④他人がうらやましく感じる

他人が持っているものや、していることが羨ましく感じる人は真似をする心理がある。憧れがそのままコピーへと変わってしまう。

⑤良いとこ取りをする性格

自分にとってメリットがある部分を真似する人は計算高いところがある。

まとめ

- ・Aさんは少なくとも自分に自信がないと考えられる。好きな俳優の真似をすることで、自分に似合うか合わないかは別として、ファッションに対する評価を得ようとしていると考えられる。
- ・人は自分に自信がなくなると、憧れの人や人気のある人の真似をすることがある。しかし、それによって自分の個性を失いやすくなる。
- ・自分の個性も活かしつつ、憧れの人を参考にしてコーディネートすることは良いが、常に真似ばかりだと、自分で物事を決められなくなってしまふ。そのため、様々な人の個性を認め合うことが重要である。各々の個性を尊重することが、私たちの個性を伸ばすことにつながるだろう。
- ・教員として、お互いの個性を尊重し合える学級をつくるために日頃から児童生徒と向き合い、良いところをたくさん褒めていく。



<引用・参考文献>

藤森旭人 小説・漫画・映画・音楽から学ぶ 児童・青年期のこころの理解 ―精神力動的な視点から― ミネルヴァ書房
Counselor web「同一化とは 解説と具体例」<<http://www.counselorweb.jp/article/440642149.html>> (2020.11.4 現在)
Change for Woman「真似をする人の心理はなぜ?特徴と真似された時の対処 恋愛心理と人間心理を知り、さらに輝く女性になるためのサイト」<<https://change-for-woman.jp/to-imitate-mind/>> (2020.11.4 現在)

事例5-3 認められたい心理

高校生3人きょうだい（高校3年生女子E・高校2年生男子F・高校1年生女子G）の休日

3人きょうだいの長女の高校3年生 Eさんは、タピオカが大好き。休日には友だちとタピオカ店巡りをして、インスタグラムに投稿。「いいね!」の数が増えるのが楽しみ。

長男の高校2年生 F君は憧れの俳優の服装や持ち物と同じものを探して、ショッピング。姉と妹からは、どんなに似合わないと言われてようとも、同じ格好を目指している。

次女の高校1年生 Gさんは、友だちと双子コーデをしてディズニーランドへ。最近、相談しなくても、偶然に似たようなスタイルになることも多い。ディズニーランドの年間パスポートを購入したので、毎週のように出かけている。

【1. 承認欲求とは】

「他者から認められたい、尊敬されたい」という気持ち。アメリカの心理学者マズローの欲求5段階説（人間の基本的な欲求を5段階に分けたもの）では、下から「生理的欲求」（食いたい・寝たい）、「安全欲求」（安全・安心な暮らしがしたい）、「所属と愛の欲求」（集団に属したい・仲間が欲しい）、「承認欲求」（褒められたい・認められたい）、「自己実現欲求」（あるべき自分になりたい）がある。この承認欲求の中でも2つに分けられ、自分で自分を認めたいという「自己承認欲求」と他人から認められたいという「他者承認欲求」がある。

承認欲求は、下から4番目に位置づけられている。



【2. 男女の承認欲求の違い】

SNSを使った迷惑行為は年々増加傾向。

・ディズニーランドで立ち入り禁止エリアでの撮影・絶景スポットへの侵入。

・タピオカやソフトクリームなどを買い、食べずに捨てごみを放置。

*圧倒的に事例が多いのは女性。ただ、前提としてこれらはSNSを利用する人の中でごく一部の人であり、迷惑行為は男性も数多く事例がある。

・男性：人間の中で一番になることで承認欲求が満たされる傾向。

<例>「ゲームでハイスコアをとった!」「凄いレアキャラをゲットした!」「一番になった!」など。

・インスタ女子：何かを集め、見せびらかして注目されたい。ただし「モノ」ではなく「体験」を大事にする。

【3. 実験】

・内容：被験者に俳優の顔写真付きTシャツを着せ、大勢がいる部屋に入らせ、しばらく部屋に放置した後連れ出し、部屋の中の何人がTシャツに気づくか考えさせた。

・被験者の予想：部屋の半分の人には気づくだろう。

・結果：5人に1人しか気づかなかった。

→ 自分自身の特性や個人の行動を大げさに評価する傾向を「スポットライト効果」という。

【4. 承認欲求が強い人への対応】

◎3つの欲求

- ・成果承認（成し遂げたことを褒める）
- ・成長承認（努力している姿勢を褒める）
- ・存在承認（目の前にいることを認める）

◎3つのメッセージ

- ・Youメッセージ（相手の事を話す）「あなたは～ですね」
- ・Iメッセージ（相手の事を自分の視点で話す）「私は～だと感じています」
- ・Weメッセージ（相手の事を大勢の視点で話す）「私たちは～だと感じています」

*相手の意見を尊重することが大切。

まとめ

- ・SNSでの「いいね!」は他者承認を得るためのもの。現代人の多くがSNSを利用し、「承認が可視化できるもの」になっている。他者承認は誰もが持つ欲求のため、上手く付き合っていくことが大切。
- ・承認欲求は「他人から認められたい、注目されたい」という気持ちのみから生じるのではなく、誰かに判断されていると感じることや罪悪感などからも生じる。そうした感情に押し潰されそうな児童生徒に対して、褒め認めることが大事。

<引用・参考文献>

熊代亨 認められたい ヴィレッジプラス

ビジネスのためのWeb活用術「承認欲求とは?」<<https://swingroot.com/esteem-needs/>> (2020年11月3日現在)

DIAMOND online「インスタで『いいね!』中毒に陥った10代モデルの告白」<<https://diamond.jp/articles/-/211695?page=2>> (2020年11月3日現在)

こころの探検「スポットライト効果とは」<<https://kokoronotanken.jp/spotlight-kouka-toha/>> (2020年11月3日現在)

一般社団法人日本産業カウンセラー協会「いつも人の目が気になる人へ!『誰もあなたのことなど見ていない』は心理実験で証明済み」<https://blog.counselor.or.jp/business_p/f274> (2020年11月3日現在)

Get Navi Web「男性は『行動』で、女性は『自分自身』を写すことで承認欲求を満たしている!」<<https://getnavi.jp/book/414843/?amp=1>> (2020年11月3日現在)

心理学者人物研究



アルフレッド・アドラー (Alfred Adler)

1870年～1937年

ウィーンで成長したアドラーは、幼い頃に肺炎で死にかけたことがきっかけで医師になることを決意し、医者への勉強を続け、最終的に心理学を専攻した。ウィーン精神分析学会の創設メンバーの一人であったが、個人は無意識的衝動ばかりでなく、社会的要因によっても影響されると主張し、離反した。この後、アドラーは心理療法のための自らの学校を立ちあげ、心理学について、いくつもの傑出した概念を展開した。



【個人心理学とは】

欧米では「個人心理学」と呼ばれるが、日本では「アドラー心理学」と呼ばれ、最近ではその考え方が一般にも親しまれている。

- ①人間の行動には目的がある(目的論)。
- ②人間を分割できない全体の立場から捉えなければならない(全体論)。
- ③人間は、自分流の主観的な意味づけを通して物事を把握する(認知論)。
- ④人間のあらゆる行動は、対人関係である(対人関係論)。
- ⑤人間は、自分の行動を自分で決められる(自己決定論)。
- ⑥人間の生き方は、その人特有のスタイルがある(ライフ・スタイル)。

個人心理学では技法面での勇気づけを重視し、共同体への所属感・共感・信頼感・貢献感を総称した「共同体感覚」という価値観を大切にされた。共同体感覚はカウンセリングや教育の目標や精神的な健康のバロメーターとされている。一方で、「自分の居場所がない」「自分のことしか考えない」「周囲の人々を信頼しない」「他者の役に立とうとを考えない」ような人は、精神的に不健康な可能性が高いとされている。

【引用・参考文献】

キャサリン・コーリン (他著)・小須田健 (訳)・池田健 (監) 心理学大図鑑 三省堂

ヒューマン・ギルド「アドラー心理学とは」<https://www.hgld.co.jp/adler.html> (2020年10月27日現在)

アルフレッド・アドラー JapaneseClass.jp(画像)

<https://japaneseclass.jp/trends/about/%E3%82%A2%E3%83%AB%E3%83%95%E3%83%AC%E3%83%83%E3%83%89%E3%83%BB%E3%82%A2%E3%83%89%E3%83%A9%E3%83%BC>(2020年10月27日現在)

アルバート・バンデューラ (Albert Bandura)

1925 年～

カナダ人の心理学者であり、自己効力感・社会学習理論（モデリング）でよく知られている。また、心理学にとどまらず、教育学や社会学にも大きな影響を与えている。



人は経験から学ぶことができる。その経験は大きく分けて2つあり、自分が体験する「直接経験」と他者の経験を見聞きする「代理経験」である。一般的には自らの経験から学ぶことが多く、他者の行動を観察するだけで学ぶことはできないとされていた。しかし、バンデューラの「モデリング理論」によりその考えが覆された。モデリング理論の有名な心理学実験として「ボボ人形実験」が挙げられる。

【バンデューラのボボ人形実験】

・実験の方法

子どもを対象に「ボボ人形」と言われる空気で膨らませたビニール人形を使用。対象の子どもを、以下のようにA・B・Cの3グループに分ける。その後、ボボ人形を含むおもちゃがある部屋に子どもを入れ観察した。

| | |
|---|---|
| A | ボボ人形に対して大人たちが攻撃的な行動をとっている映像が見せられる。 (叩いたり、蹴ったり、罵声を浴びさせている。) |
| B | ボボ人形に対して大人たちが攻撃をしない映像が見せられる。 (他のおもちゃで遊ぶことや、静かに過ごす。) |
| C | 何も映像を見せない。 |

・実験の結果

Aの子どもはB・Cの子どもよりもボボ人形に対して攻撃的な言動はるかに多かった。これにより、人は他者の言動を見るだけでも学習する「モデリング理論」が広がった。モデルの対象は自分の憧れている人や尊敬している人であるケースが多い。だが一番身近にいる大人がモデルになることもある。そのため、意図していなくとも、大人の言動は子どもに観察、模倣、学習されている。

【まとめ】

幼少期は特にモデリングが行われるため、小学校の学級担任制では、毎日、教員は児童の前に立ち、模倣される。また児童と教員が話す機会は多く、教員が不適切な言葉遣いや行動をしていると、「先生がやっていたから僕も(私も)」となる可能性が高い。また小学生は「真似」が好きな時期でもあるため、教員は自身の言動に気をつけなくてはならない。

<参考・引用文献>

KATSUIKU ACADEMY 「バンデューラのモデリング理論とは？心理学で有名なボボ人形実験を紐解く」

<https://www.katsuiku-academy.org/media/modeling-bandura/> (2020年11月9日現在)

Wikipedia アルバート・バンデューラ (画像)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%AB%E3%83%90%E3%83%BC%E3%83%88%E3%83%BB%E3%83%90%E3%83%B3%E3%83%87%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%83%A9> (2020年11月9日現在)

アルフレッド・ビネー (Alfred Binet)

1857年～1911年

【はじめに】

「知能指数」という言葉を聞いたことがあるだろうか。一般的には「IQ」と呼ばれており、「知能検査」によりそれが算出される。「知能指数(IQ)」は平均が100であり、その数値が高いほど天才と呼ばれるような頭脳・才能を持ち合わせているとされている。有名人では、マイクロソフト開発者のビル・ゲイツがIQ160、芸術家のレオナルド・ダ・ヴィンチはIQ205以上などが挙げられる。では、そもそもなんのために「知能指数(IQ)」を測定しようとし、どのようにつくられたものなのであろうか。

【ビネーと知能検査】



「知能検査」はビネーが創案した。彼はフランス生まれの心理学者であり、精神医学のほか、動物心理学・思考心理学・異常心理学などの幅広い分野について研究していた。1899年、インターン中の彼は、知的障害児童施設にて後の知能検査完成に大きく貢献した医師のセオドア・シモンと出会う。ビネーはフランス政府により「特別な支援が必要な子どもを客観的に見分けるテスト」の作成を依頼され、その施設の入所者を対象に様々な検査を行った。その後、ほどなくしてビネーは脳卒中により「知能検査」の完成前に亡くなるが、1905年、シモンにより知能検査「ビネー・シモン知能尺度」が発表され、世界中に反響を呼んだ。

【最後に】

現在では一般的にIQが高ければ天才であり、低ければ頭が悪いと判断されることが多いが、そもそも「知能検査」とは、特別な支援が必要な子供を見分けるためにつくられたものである。そのため、知能検査の数値が低くても、その人の「頭が悪い」ということにはつながらない。知能指数(IQ)は、学力と違い、人間が潜在的に生まれ持つものであるためである。知能指数(IQ)の違いにより、勉強の理解力の差が生まれてしまう場合があるが、単純な学力は努力によって向上させることができる。人に何かを教える際に、「なぜこんな簡単なことがわからないのだろうか？」と思う場面があるかもしれないが、その時に、「この人はダメだから」と考えるのではなく、「支援が必要である人」ととらえ、個に応じた適切な対応をしていくことが大切である。

【引用・参考文献】

田中正人・斎藤勇（監修） 図解 心理学用語大全 誠文堂新光社

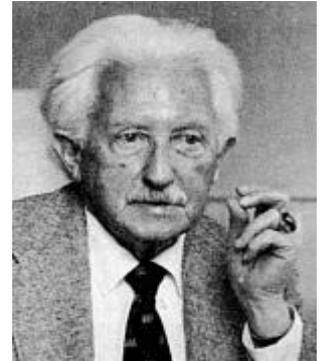
Wikipedia アルフレッド・ビネー（画像）

https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%AB%E3%83%95%E3%83%AC%E3%83%83%E3%83%89%E3%83%BB%E3%83%93%E3%83%8D%E3%83%BC#/media/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Alfred_Binet.jpg (2020年11月9日現在)

エリク・エリクソン (Erik H. Erikson)

1902年～1994年

- ・アメリカ合衆国出身
- ・発達心理学者、精神分析家
- ・「心理社会的発達理論」「自我同一性」の概念を提唱
- ・著書：「幼年期と社会」「青年ルッター」「アイデンティティ」など



絵画の教師として転々とし、ウィーンでフロイトの精神分析学に関心を持ちその訓練を受け、後に、アメリカに移住し、児童精神分析学を開始した。フロイトの心理学を基礎として、社会での人々の経験や文化、民族、戦争の影響を考慮した心理社会的、文化論的観点からの心理社会的発達論を展開した。「自我同一性」の概念はもちろん、理論全体の社会的視点は精神分析学派や社会科学の分野に大きな影響を与えた。

【心理社会的発達理論】

8つの発達段階に分け、各段階の心理社会的危機を克服すると次の段階に進めると考えた（表1）。

表1 8つの発達段階

| 発達段階 | 年齢 | 心理社会的危機 | 獲得 |
|-------|--------|--------------|-----|
| 乳児期 | 出生～2歳 | 基本的信頼 vs 不信 | 希望 |
| 幼児期前期 | 2～4歳 | 自律性 vs 恥と疑惑 | 意思 |
| 幼児期後期 | 4～6歳 | 自主性 vs 罪悪感 | 目的 |
| 児童期 | 6～12歳 | 勤勉性 vs 劣等感 | 有能感 |
| 青年期 | 12～22歳 | 同一性 vs 同一性拡散 | 忠誠性 |
| 成人期 | 22～40歳 | 親密性 vs 孤独 | 愛 |
| 壮年期 | 40～64歳 | 世代性 vs 停滞性 | 世話 |
| 老年期 | 65歳以降 | 自己統合 vs 絶望 | 英知 |

【自我同一性】

「自分とは何か」「自分はどこからきたのか」「自分はどこへ行くのか」というように、自問自答し、この問いの答えを見つける。これが自我同一性(アイデンティティ)の確立という。

【引用・参考文献】

東京アカデミー（編著） 2021年度教員採用試験対策 教職教養Ⅱ 七賢出版株式会社

psycho-lo 「エリクソンの発達段階と発達課題とは？ライフサイクル理論を分かりやすく解説」

<https://psycho-lo.com/erikson> (2020.10.21 現在)

PPS RM コレクション エリクエリクソン（画像）（2020.10.21 最終）

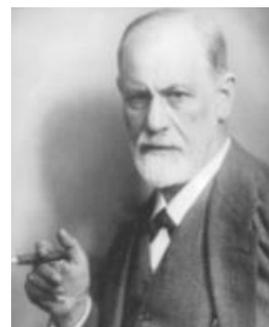
https://search.ppsimages.co.jp/cgi-bin/search.cgi?rm=results&site=Meta&do_search=1&form_name=metageneral_and_metahistory&perpage=60&orientation=&session_id=&keyword_and=%E3%82%A8%E3%83%AA%E3%82%AF%E3%83%BB%E3%82%A8%E3%83%AA%E3%82%AF%E3%82%BD%E3%83%B3 (2020.10.21 現在)

ジークムント・フロイト (Sigmund Freud)

1856 年～1939 年

【プロフィール】

オーストリアの精神分析学者。精神科医。主著『精神分析入門』『夢診断』。
ウィーン大学で物理学・医学・生理学などを学ぶ。卒業後は多くの患者を治療するとともに、人の無意識や夢を科学的にとらえる精神分析を提唱。医学分野だけでなく、文化や芸術にまで大きな影響を与えた。



【心のモデル】

フロイトは人の心を氷山にたとえ、意識されている（水上に出でている）部分はほんの一部で、多くは無意識下に隠れているととらえた。この無意識下に抑圧された部分を人は認識することができず、自らの行動に疑問をもったり、悩んだりする。フロイトは、人間の精神は以下の 3 要素が相互作用した結果であるにとらえている。

- ① エス（イド）：無意識の領域にある、本能的なエネルギー。
- ② 自我（エゴ）：認識できる部分で、エスと超自我を調整する。
- ③ 超自我（スーパーエゴ）：良心や道徳観の規範。エスの欲望を抑圧しようとする。

【自我防衛機制】

人間は自らの欲求が満たされない状態、すなわち欲求不満の状態に置かれたとき、その状況に自らを適応させようとする。防衛機制（表 1）とは、自己の心の中の不安や恐怖、緊張感を解消しようと無意識的に作用するもので、状況や性格によって様々な現れ方をする。こうした反応をすることで、人間は自我を維持しようとするのである。

表 1 さまざまな自我防衛機制

| | |
|-----------|--------------------------------|
| 合理的解決 | 理性的に問題を見つめ、解決しようとする。 |
| 攻撃行動・近道行動 | 衝動的・暴力的に問題を解決しようとする。 |
| 失敗反応 | いつまでも欲求不満を解決できない状態。 |
| 抑圧 | 欲求を無意識のうちに抑え、苦痛を感じないようにする。 |
| 合理化 | もっともらしい理由をつけて、自分は正しいと思いこむ。 |
| 同一視 | |
| ① 取り入れ | ① 自分より優れているものと自分を重ね合わせて満足する。 |
| ② 投射 | ② 自分の欠点を相手の欠点だと思い込む。 |
| 逃避 | その場から逃げたり、空想や病気から逃げたりする。 |
| 反動形成 | やりたいことと反対の行動をとる。 |
| 置き換え | |
| ① 代償 | ① 満たされない欲求を別のもので満たそうとする。 |
| ② 昇華 | ② 芸術やスポーツなど、社会的価値のあるものに情熱を向ける。 |
| 退行 | 子どもにかえり、低い次元の欲求で満足する（赤ちゃん返り）。 |

【引用・参考文献】

帝国書院編集部（編）・池上彰（監修） 世の中の動きに強くなる ライブ！現代社会 2017

Wikipedia ジークムント・フロイト

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B8%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%83%A0%E3%83%B3%E3%83%88%E3%83%BB%E3%83%95%E3%83%AD%E3%82%A4%E3%83%88> (2020 年 11 月 9 日現在)

アブラハム・マズロー (Abraham Maslow)

1908年～1970年

ニューヨーク州ニューヨーク市のブルックリン区生まれ。精神病理の理解を目的とする精神分析学と、人間と動物を区別しない行動主義心理学の間の、第三の勢力として、心の健康についての心理学を目指し、人間の自己実現を研究するものである。特に人間の欲求の階層を主張したことで知られている。



図 1 アブラハム・ハロルド・マズロー

【欲求の階層とは】

1943年にマズローが発表した論文「人間の動機づけに関する理論」で発表された。以下の段階がある。

1. 生理的欲求
2. 安全の欲求
3. 所属と愛の欲求
4. 承認の欲求
5. 自己実現の欲求

1～5番の優先順に並んだ欲求は、低いものから順番に現れ、その欲求がある程度満たされると、次の欲求を満たそうと考える。また、マズローの研究によると5番目の「自己実現の欲求」は以下の2つに分けられる。

- ・超越的でない自己実現欲求
- ・超越的な自己実現欲求

そのため、マズローの欲求段階は5つでなく6つと考えることも可能であることが分かる。また、欲求において順番があるということも考えられてきたが、現在の研究では順番が人によって異なるとの結果も立証されている。

【引用・参考文献】

小高良友 マズローの欲求階層説と臨床社会学 (2010). 東海学院大学紀要4 pp.53-59.

肥田日出生 マズロー = ウイルソン欲求理論が含意するもの (2002). 経済研究 (明治学院大学) 第124号 pp85-96.

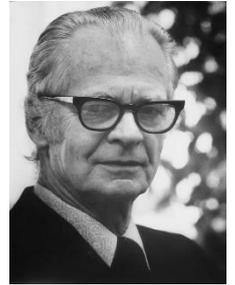
八木仁平 「マズローの欲求5段階説をこの上なく丁寧に解説する。あなたの欲求はどのレベル？」(画像とも) <https://www.jimpei.net/entry/maslow#i> (2020年11月9日現在)

バラス・フレデリック・スキナー (B. F. Skinner)

1904年～1990年

【オペラント条件づけ】

- ・オペラント行動：ある行動が生じた直後の、刺激の出現、もしくは消失といった環境の変化に応じて、頻度が増える行動。
- ・オペラント条件づけ：オペラント行動が自発的に生じた直後の環境の変化に応じて、その後の自発頻度が増える学習。



【スキナー箱】

1938年に、スキナーがマウスやハトを用いて体系的な研究を開始した。スキナー箱とは、マウスが餌が出るレバーを押すように自発的に行動するようになることを観察する代表的な実験装置である。道具的条件づけやスキナー型条件づけ、オペラント学習とも呼ばれる。

【学習パターンの種類】

オペラント条件づけには、自発的行動と結果（刺激）の関係性によって4つの学習パターンがある（右図参照）。

| | 自発的行動の発生頻度 | |
|------------|------------|-------|
| | 増加(+) | 減少(-) |
| 刺激を与える(+) | 正の強化 | 負の罰 |
| 刺激を取り除く(-) | 負の強化 | 正の罰 |

①正の強化：刺激を与えられたこと（+）で、行動が増える（+）。

<例>あるスマホゲームで休日にログインすると、限定アイテムがもらえる（=刺激）。

→休日にログインする回数が増える（=行動）。

②正の罰：刺激を与えられたこと（+）で、行動が減る（-）。

<例>フリマアプリで不正を行ったため、運営側からペナルティを受ける。

→不正を行う回数が減る（=行動）。

③負の強化：刺激を取り除かれたこと（-）で、行動が増える（+）。

<例>冬にうがい薬を使うようになったら、風邪をひきづらくなった（=刺激）。

→うがい薬を買う回数が増える（=行動）

④負の罰：刺激を取り除かれたこと（-）で、行動が減る（-）。

<例>ゲームをやりすぎて、親にゲーム機を没収される（=刺激）。

→ゲームをする時間が減る（=行動）。

【オペラント条件づけと古典的条件づけ】

| オペラント条件づけ | 古典的条件づけ |
|--|---|
| ①レバーを仕掛けた檻にネズミをいれる。 ②レバーをネズミが偶然押すと、餌が出てくる。 ③ネズミはレバーを積極的に押すようになる。 | ①犬に餌を与える。 ②ベルを鳴らした後に、餌を与える。 ③犬は、ベルの音を聞いただけで、唾液を出すようになる。 |
| 行動は能動的 | 行動は受動的 |

【まとめ】

動物の行動には、能動的な行動と受動的な行動がある。オペラント条件づけと古典的条件づけの両方において、「実際に餌をもらう」という直接的な経験は同じでも、自ら行動を起こす場合と、自然に反応が出る場合に分かれる。

教員として児童生徒に接する場合には、オペラント条件づけを用いて、児童生徒に能動的な学習をするように指導する。例えば、予習をしてきた児童にはシールを与えたり、クラス全員が一週間宿題を忘れずにしてきたら休み時間を増やしたりするなど取り組みが考えられる。初めは報酬のために意識して行っていた行動でも、続けることにより習慣化され、自然と身につくだろう。単に児童生徒に指示を出すのみでなく、「これをするとなんか良いことがある」と伝え、児童生徒が能動的な行動を起こす工夫が大切である。

<引用・参考文献>

Wikipedia バラス・スキナー (画像とも)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%90%E3%83%A9%E3%82%B9%E3%83%BB%E3%82%B9%E3%82%AD%E3%83%8A%E3%83%BC> (2020年11月9日現在)

UX TIMES 「オペラント条件付け」 <https://uxdaystokyo.com/articles/glossary/operant-conditioning/> (2020年11月9日現在)

い一つぶネット 「古典的条件付け&オペラント条件付け」 <https://ebay-tsubuyaki.com/post-4733/> (2020年11月9日現在)

スキナー (画像)

https://www.google.com/imgres?imgurl=https%3A%2F%2Fpbs.twimg.com%2Fmedia%2FBNXQaHrCYAE1jYW.jpg&imgrefurl=https%3A%2F%2Ftwitter.com%2Ffutaba_afb%2Fstatus%2F348413693341622272&tbid=KQAQmBsQzbtXM&vet=12ahUKEwiY-cqyicXsAhUGfZQKHRICCCZQQMygCegUIARChAQ..i&docid=agAB6Y1DON7fdM&w=432&h=613&q=%E3%83%90%E3%83%A9%E3%82%B9%E3%83%BB%E3%82%B9%E3%82%AD%E3%83%8A%E3%83%BC&ved=2ahUKEwiY-cqyicXsAhUGfZQKHRICCCZQQMygCegUIARChAQ (2020年11月9日現在)

おわりに

さいごまでご覧いただきありがとうございました。

心理学を学び、その知見を活用することによって、将来、教員として、児童生徒を理解し、あたたかく寄り添うことを目指していきたいと思えます。

第33回オンライン飛翔祭
学校教師学部 関塚ゼミ学生一同